

改善報告書

大学名称 東京理科大学 (大学評価実施年度 2020 年度)

1. 大学評価後の改善に向けた全般的な取り組み状況

(1) 東京理科大学における内部質保証体制

本学では、「東京理科大学内部質保証方針及び実施体制」(以下「内部質保証方針及び実施体制」という。)に明示する全学的な内部質保証の方針に基づき「東京理科大学内部質保証推進規程」(以下「推進規程」という。)によって、内部質保証を推進する組織と機能、役割分担を明確に定めている(資料1-1、資料1-2)。

推進規程では内部質保証の体制として、学長の下に全学の内部質保証推進に責任を負う組織である「大学質保証推進委員会」(以下「推進委員会」という。)及び「自己点検・評価委員会」(以下「評価委員会」という。)を設置し、それぞれの委員会に異なる機能、役割を持たせている(資料1-1、資料1-2)。具体的には、推進委員会は内部質保証の基盤となる各部局の自己点検・評価の基本方針の策定や自己点検・評価結果に基づく改善の監理を担う組織とし、評価委員会は、自己点検・評価の実施体制や自己点検・評価結果の取りまとめを担う組織としており、これらの内部質保証の体制、手続きを可視化して「東京理科大学内部質保証システム体系図」に示している(資料1-1～資料1-3)。

この手続により内部質保証を推進することで、推進委員会は全学の PDCA サイクルを機能させるとともに、各部局の自己点検・評価結果の報告、改善計画や改善状況の監理を通じて部局単位の PDCA サイクルを実質化するための連携・支援機能を担っている(資料1-1～資料1-3)。

(2) 大学評価後の改善に向けた組織的な取り組み

上述の内部質保証体制のもと 2020 年度に受審した機関別認証評価では、基準 5 「学生の受け入れ」において、2 学部 3 学科、1 研究科の修士課程に対して、いずれも収容定員に対する在籍学生数比率が低い状況にあることの指摘を受け、定員管理の徹底に係る改善課題の提言の対象となった(資料1-4)。このことから、2021 年度以降、同改善事項の対象となった部局に対して、学長から推進委員会委員長を経て、対応計画を立てたうえで改善活動に取り組むことを指示している(資料1-5～資料1-8)。併せて、推進委員会が定める『自己点検・評価の基本方針』、これを受けて評価委員会が定める『自己点検・評価の実施方針』において、同改善事項に対して点検・評価を行うことを指示している(資料1-9、資料1-10)。これらに基づき、各部局は改善活動及び自己点検・評価を実施し、結果を報告書において報告している。この報告を受けて、評価委員会、推進委員会は点検・評価、改善の各活動とその結果を確認し、学長に報告するとともに、推進委員会から各部局に対して所見を付したうえでフィードバックを行っている(資料1-11～資料1-15)。

これらの内部質保証体制の下で、改善課題の提言の対象となった各部局は、後述する具体的な取り組みにより、改善活動を推進してきたところである。

<根拠資料>

- 1-1 東京理科大学内部質保証方針及び実施体制 (https://www.tus.ac.jp/about/data/guarantee/overview/file/naibu_housin.pdf)
- 1-2 東京理科大学内部質保証推進規程 (https://www.tus.ac.jp/about/data/guarantee/overview/file/naibu_kitei_2023.pdf)
- 1-3 東京理科大学内部質保証システム体系図 (https://www.tus.ac.jp/about/data/guarantee/overview/file/naibu_taikei_2022.pdf)
- 1-4 東京理科大学に対する大学評価（認証評価）結果 (https://www.tus.ac.jp/about/data/guarantee/facility_assessment/file/25result.pdf)
- 1-5 2020年度東京理科大学自己点検・評価報告書に基づく改善について
- 1-6 2020年度自己点検・評価報告書に係る改善事項の改善方法等の策定について
- 1-7 2021年度第2回大学質保証推進委員会議事抄録及び資料
- 1-8 2020年度自己点検・評価報告書に係る改善事項の改善計画の検証結果について
- 1-9 2021年度東京理科大学における自己点検・評価の基本方針
- 1-10 2021年度東京理科大学における自己点検・評価の実施方針
- 1-11 2021年度第3回自己点検・評価委員会議事抄録及び資料
- 1-12 2021年度第6回大学質保証推進委員会議事抄録及び資料
- 1-13 2021年度東京理科大学自己点検・評価報告書及び改善事項について
- 1-14 2022年度第2回大学質保証推進委員会議事抄録及び資料
- 1-15 2020年度自己点検・評価に基づく改善事項の検証結果について（報告）

2. 各提言の改善状況

(1) 是正勧告

なし

(2) 改善課題

No.	種 別	内 容																
1	基準	基準5 学生の受け入れ																
	提言 (全文)	1) 収容定員に対する在籍学生数比率について、工学部情報工学科で 0.87、基礎工学部電子応用工学科が 0.86、同生物工学科が 0.89 と低いため、学部の定員管理を徹底するよう、改善が求められる。																
	大学評価時の状況	<p>大学評価受審時における収容定員に対する在籍学生数比率 (2019 年度収容定員充足率)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>収容定員</th> <th>在籍学生数</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>工学部 情報工学科</td> <td>400</td> <td>349</td> <td>0.87</td> </tr> <tr> <td>基礎工学部 電子応用工学科 ※1</td> <td>460</td> <td>395</td> <td>0.86</td> </tr> <tr> <td>基礎工学部 生物工学科※2</td> <td>460</td> <td>409</td> <td>0.89</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：2021年4月先進工学部電子システム工学科に名称変更 ※2：2021年4月先進工学部生命システム工学科に名称変更</p> <p>大学評価時には、適正な受験者数を得て、過去のデータに基づき適正な入学者数となるよう合格者数を決定していたが、その予測に反して入学手続者数が伸び悩んだことが要因であると検証しており、2020年度以降上述の状況を考慮したうえで合格者数を決定することとした。</p>	名称	収容定員	在籍学生数	比率	工学部 情報工学科	400	349	0.87	基礎工学部 電子応用工学科 ※1	460	395	0.86	基礎工学部 生物工学科※2	460	409	0.89
名称	収容定員	在籍学生数	比率															
工学部 情報工学科	400	349	0.87															
基礎工学部 電子応用工学科 ※1	460	395	0.86															
基礎工学部 生物工学科※2	460	409	0.89															
	大学評価後の改善状況	<p>大学評価後の収容定員管理に関する改善状況</p> <p>2020 年度の入試改革推進委員会にて、改善が必要な学部・学科の現状確認を行い、入学定員確保において考慮すべき基準等について確認を行った (資料 2 - (2) - 1 - 1)。その後、理事長から学長宛に 2021 年度の実入学者数 (案) について通知がされ、これを踏まえ、学長、副学長、学部長等を構成員とする教育研究会議において、極力入学定員の 0.96 倍から 1.00 倍までの範囲となるよう入学者確保計画を検討することについて周知を行った。併せて、副学長 (入試担当) から各部局の長宛に具体的な指示を行っている (資料 2 - (2) - 1 - 2)。</p> <p>これらについて、2021 年度以降も継続して入試改革推進委員会において現状を把握するとともに、各年度の入学者数が適切な数となるよう、毎年度の入試にお</p>																

		<p>ける実入学者数と入学者確保計画の検討を行ってきた（資料 2-(2)-1-3～資料 2-(2)-1-8）。</p> <p>また、全学の内部質保証推進組織である推進委員会が定める『自己点検・評価の基本方針』、及び評価委員会が定める『自己点検・評価の実施方針』においても、機関別認証評価の結果、改善課題に該当する学科は、学生の受け入れの状況について点検・評価を行い、その結果を報告書にまとめることを必須とした（資料 1-9、資料 1-10）。併せて、2021 年度以降、学長から推進委員会委員長を経て、対応計画を立てたうえで改善活動に取り組むことを指示している（資料 1-5～資料 1-8）。改善の結果は推進委員会において確認するとともに、各改善活動の結果に所見を付し、学長に報告したうえで各部局へフィードバックを行っており、改善内容・経過・結果等を監理している（資料 1-14、資料 1-15）。</p> <p>これらの取組みにより、現在 2023 年度に実施した「2022 年度の自己点検・評価結果に基づく改善活動」が完了しており、学長に報告を行ったところである。その結果、改善課題の対象となった各学科の収容定員充足率は下表のとおり適正な値に改善しており、改善活動の成果を確認できたことから改善活動は完了したと判断する（資料 2-(2)-1-9）。</p> <p>[表：大学基礎データ（表 2）抜粋]</p> <p>2024 年 5 月 1 日現在の収容定員に対する在籍学生数比率</p> <table border="1" data-bbox="678 1496 1300 1769"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>収容定員</th> <th>在学生数</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>工学部 情報工学科</td> <td>440</td> <td>461</td> <td>1.05</td> </tr> <tr> <td>先進工学部 電子システム 工学科※1</td> <td>470</td> <td>510</td> <td>1.09</td> </tr> <tr> <td>先進工学部 生命システム 工学科※2</td> <td>470</td> <td>470</td> <td>1.00</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：2021 年 4 月基礎工学部電子応用工学科から名称変更 ※2：2021 年 4 月基礎工学部生物工学科から名称変更</p>	名称	収容定員	在学生数	比率	工学部 情報工学科	440	461	1.05	先進工学部 電子システム 工学科※1	470	510	1.09	先進工学部 生命システム 工学科※2	470	470	1.00
名称	収容定員	在学生数	比率															
工学部 情報工学科	440	461	1.05															
先進工学部 電子システム 工学科※1	470	510	1.09															
先進工学部 生命システム 工学科※2	470	470	1.00															
「大学評価後の改善状況」の根拠資料		<p>2-(2)-1-1 2020 年度第 3 回入試改革推進委員会議事抄録及び資料</p> <p>2-(2)-1-2 2020 年度 9 月度教育研究会議議事抄録抜</p>																

		料及び資料 2-(2)-1-3 2021 年度第 4 回入試改革推進委員会議事抄録及び資料 2-(2)-1-4 2021 年度 9 月度教育研究会議議事抄録抜粋及び資料 2-(2)-1-5 2022 年度第 4 回入試改革推進委員会議事抄録及び資料 2-(2)-1-6 2022 年度 9 月度教育研究会議議事抄録抜粋及び資料 2-(2)-1-7 2023 年度第 2 回入試改革推進委員会議事抄録及び資料 2-(2)-1-8 2023 年度 9 月度教育研究会議議事抄録抜粋及び資料 2-(2)-1-9 2022 年度自己点検・評価に基づく改善事項に係る進捗状況について								
<大学基準協会使用欄>										
	検討所見									
	改善状況に関する評定	5 4 3 2 1								
No.	種 別	内 容								
2	基準	基準 5 学生の受け入れ								
	提言 (全文)	2) 収容定員に対する在籍学生数比率について、経営学研究科修士課程で 0.38 と低いため、大学院の定員管理を徹底するよう、改善が求められる。								
	大学評価時の状況	大学評価受審時における収容定員に対する在籍学生数比率 (2019 年度収容定員充足率) <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">名称</th> <th style="text-align: center;">収容定員</th> <th style="text-align: center;">在籍学生数</th> <th style="text-align: center;">比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">経営学研究科 経営学専攻 (修士課程)</td> <td style="text-align: center;">40</td> <td style="text-align: center;">15</td> <td style="text-align: center;">0.38</td> </tr> </tbody> </table> <p>「理学と工学の知識に基づき数理・数量的かつ実証的アプローチを積極的に活用」した教育を実施し、これを基礎に大学院で更に発展させることを目指して、ゼミや卒業研究を通じて学部学生へ大学院進学を促していたが、学生の受け入れにその成果が反映されていない状況であった。</p> <p>このことから、学内だけでなく学外の有力大学への広報強化及び説明会の開催、入学試験を夏期と冬期の 2</p>	名称	収容定員	在籍学生数	比率	経営学研究科 経営学専攻 (修士課程)	40	15	0.38
名称	収容定員	在籍学生数	比率							
経営学研究科 経営学専攻 (修士課程)	40	15	0.38							

	<p>回実施すること等の改善活動を行った。以降、学生の受け入れの改善状況を検証し、適正な在学生数となるよう引き続き改善を行うこととしていた。</p>
<p>大学評価後の改善状況</p>	<p>大学評価後の収容定員管理に関する改善状況</p> <p>2020年度の入試改革推進委員会にて、改善が必要な研究科・専攻の現状確認を行い、大学院においては現在各研究科（専攻）が実施している学生の受入れに向けた取り組みを検証し、その成果を今後も注視することとした（資料2-(2)-2-1）。</p> <p>また、全学の内部質保証推進組織である推進委員会が定める『自己点検・評価の基本方針』、及び評価委員会が定める『自己点検・評価の実施方針』においても、機関別認証評価の結果、改善課題に該当する研究科は、定員管理について点検・評価を行い定員管理の点検・評価結果を報告書にまとめることを必須とした（資料1-9、資料1-10）。併せて、2021年度以降、学長から推進委員会委員長を経て、対応計画を立てたうえで改善活動に取り組むことを指示している（資料1-5～資料1-8）。改善の結果は推進委員会において確認するとともに、各改善活動の結果に所見を付し、学長に報告したうえで各部局へフィードバックを行っており、改善内容・経過・結果等を監理している（資料1-14、資料1-15）。</p> <p>経営学研究科経営学専攻の具体的な改善活動としては、従来の学内ポータルサイトにおける周知や学内掲示において募集を行うことに加え、オリジナルホームページでの広報を開始した（資料2-(2)-2-2）。併せて、説明会に参加しやすい環境とするため、オンライン併用のハイブリッド型での入試説明会（教員と学生による座談会形式を含む）を実施し、大学院進学の魅力を発信した（資料2-(2)-2-3～資料2-(2)-2-5）。</p> <p>また、進学意欲を向上させるためには、大学院学生が充実した研究活動を行えるような環境が重要であることから、院生室のスペースの確保と室内の整備を行った（資料2-(2)-2-6）。</p> <p>併せて、修士課程の学内選考において、従来指定していた学部学科以外の学生でも出願が可能となるよう条件を緩和したこと、各種入試の実施形態について専</p>

	<p>攻の構成員がしっかり把握し、学部 4 年時に研究室に所属する学生からの進学を促すこと等の取組みを行った（資料 2-(2)-2-7、資料 2-(2)-2-8）。</p> <p>更に、経営学専攻のオリジナルリーフレットを作成し、経営学部の新入生ガイダンス及び保証人懇談会で配布する等、学生のみならず保証人も学部入学後の早い段階で大学院進学を意識するように働き掛けている（資料 2-(2)-2-9）。</p> <p>これらの取組みにより、現在 2023 年度に実施した「2022 年度の自己点検・評価結果に基づく改善活動」が完了しており、学長に報告を行ったところである。その結果、経営学研究科経営学専攻の収容定員充足率は、下表のとおり適正な値に改善しており、改善活動の成果を確認できたことから改善活動は完了したと判断する（資料 2-(2)-1-9）。</p> <p>[表 : 大学基礎データ (表 2) 抜粋]</p> <p>2024 年 5 月 1 日現在の収容定員に対する在籍学生数比率</p> <table border="1" data-bbox="678 1115 1300 1249"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>収容定員</th> <th>在籍学生数</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経営学研究科 経営学専攻 (修士課程)</td> <td>40</td> <td>38</td> <td>0.95</td> </tr> </tbody> </table>	名称	収容定員	在籍学生数	比率	経営学研究科 経営学専攻 (修士課程)	40	38	0.95
名称	収容定員	在籍学生数	比率						
経営学研究科 経営学専攻 (修士課程)	40	38	0.95						
「大学評価後の改善状況」の根拠資料	<p>2-(2)-2-1 2020 年度第 2 回入試改革推進委員会議事抄録及び資料</p> <p>2-(2)-2-2 経営学研究科オリジナルホームページ (https://www.rs.tus.ac.jp/management_graduate/)</p> <p>2-(2)-2-3 経営学研究科経営学専攻(修士課程) 進学説明会ポスター</p> <p>2-(2)-2-4 経営学研究科経営学専攻(修士課程) 進学説明会開催報告 (https://www.tus.ac.jp/today/archive/20230427_4891.html)</p> <p>2-(2)-2-5 経営学研究科経営学専攻進学説明会 (511 開催) 報告及び今後の広報施策について</p> <p>2-(2)-2-6 2023 年度第 10 回経営学部教授総会 議事抄録</p> <p>2-(2)-2-7 2020 年度第 1 回経営学研究科会議議事録</p> <p>2-(2)-2-8 2021 年度経営学研究科経営学専攻(修士課程) 学内選考入学試験募集要項(抜粋)</p> <p>2-(2)-2-9 2021 年度経営学研究科経営学専攻(修士</p>								

	課程) リーフレット
<大学基準協会使用欄>	
検討所見	
改善状況に関する評定	5 4 3 2 1

